

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度第3回吉川市総合戦略推進審議会
開 催 日 時	平成28年8月24日(水) 午後6時00分から 午後8時00分まで
開 催 場 所	吉川市役所 204会議室
出席委員(者)氏名	大杉覚委員、瀬山紀子委員、田口政博委員、小西毅委員、 田中博委員、広嶋秀樹委員、阿部秀夫委員、小林照男委員、 飯村毅委員
欠席委員(者)氏名	程田幸秀委員
担当課職員職氏名	[市出席者] 副市長 椎葉祐司 参 与 土屋綱男 [事務局出席者] 政策室長 岡田忠篤 政策室主幹 吉田誠 政策室企画担当主査 宮田匡寿 政策室企画担当主任 東原拓哉
会議次第と会議の公開又は非公開の別	[次第] 1. 開会 2. あいさつ 3. 議事 (1) 吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定(案)について (2) その他 4. 閉会 [公開・非公開] 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	4人
会議資料の名称	次第 資料1 吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定(案)について 資料2 市民・審議会からの意見に対する考え方
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	小西毅委員、阿部秀夫委員
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局 会長	1 開会 2 あいさつ 本日はいよいよ、総合戦略改定案の確定となる。皆様のご協力をいただきながら作成したいと考えているので、よろしくお願ひする。

	<p>議事開始前に本日の議事録署名委員を選任したい。小西委員、阿部委員を議事録署名委員にお願いしたい。 (両名、了承)</p>
	<p>3 議事</p>
事務局	<p>(1) 吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定(案)について 資料1「具体的事業の方向性の検討について」、資料2「市民・審議会からの意見に対する考え方」を用いて、基本目標1について説明。</p>
委員	<p>【意見・質疑等】 ICT教育の推進についてはどのような取り組みを想定しているか。</p>
事務局	<p>デジタル教科書を活用した取り組みや、今後各学校に計画的に無線LANを整備していくことを想定している。</p>
委員	<p>企業目線で申し上げると業務を行う上でエクセル、ワード、パワーポイント等を活用して業務を行っているため、児童・生徒がこのようなソフトに慣れていくための取り組みを想定していたが、そのような取り組みはないのか。</p>
学校教育課	<p>各学校にはパソコンが40台あり、1年生では「お絵かきソフト」を使用したマウスの動きの体験、6年生では、報告書の作成等、各学年の実態に応じた指導を行っている。教職員の指導力の向上が重要と考えている。文科省で、教職員のICT指導力を調査しており、この調査結果によると、教員の指導力については、校務用パソコンを導入したこと等により、向上している状況である。教員の指導力の中で弱い部分については今後しっかりと考えていく必要があると認識している。</p>
委員	<p>ICTの現状として、今あるアプリケーションを使いこなすというよりは、安全性やモラルといった部分の教育を行う形に変わりつつある。10年後、20年後今のアプリケーションがどう変化しているか掴めない状況であり、例えば「はさみを使いこなすようにICTを使いこなす。」という考え方が重要である。この考え方は、はさみの使い方をきちんと教育しておかないと怪我人が出るが、はさみが、いろいろな創造的なものが作れるという観点があり、使い方をしっかりと教育するのではなく、安全性やモラルといった部分の教育に力を入れるという考え方である。一方で、インフラ部分のICTの現状では、日本は未だにホワイトボードを使用しているが、海外では、ホワイトボードの時代が終わり、電子黒板が主流となっている。そして、そのメーカーが日本製という状況である。電子黒板が導入されると、映像を活用した教育に進化させることができ、子どもたちは、ICTのモラル教育、使いこなす能力の向上が必要となる。また、コミュニケーション能力の部分では、場所の異なる、日本と時差の無い場所とのコミュニケー</p>

	<p>ションをどうやって行えるか、言語の違いをアプリケーションで解決できるか等の仕組みが必要であり、すでに幼児教育のICTに導入されているのが現状である。今あるワード、エクセル等を使いこなすことも大切であるが、それ以前の部分がこれからは、注視されていくものだと感じている。</p>
会長	<p>学力向上と教育環境の充実という両者が関係してくると思うが、学習の支援のためのICTの活用なのか、それとも委員の意見のようなICTのリテラシーの部分なのか、あるいはアプリケーションの活用なのか違いがあるはずであり、次のアクティブラーニングの記述部分がそのような課題解決の部分となるのかは整理する必要がある。おそらく施策1の(1)【学力向上】については道具の話だと思うので、もう少しその辺を整理し、伝わりやすくした方が良いのではないかと。</p>
委員	<p>小人数指導の充実について実態や課題について教えてほしい。</p>
学校教育課	<p>小人数指導については、現在吉川市でも算数科を主な教科として取り組んでいる。県費による小人数指導員は学校規模により異なるが、概ね各校に1人から2人であり、各校が2人となるように市費で手配している。小人数指導については、どの部分において教員の2名配置を行うか、どのようにクラスを分けることが効果的か等研究しながら、各学校で進めている現状である。</p>
委員	<p>先進的な他の市町村等の取り組みや予算等の情報を共有し、進めていただきたい。</p>
委員	<p>家庭教育学級の充実には、子どもを囲む家庭の教育という意味合いが含まれているのか確認したい。</p>
生涯学習課	<p>そのとおりである。参加者については、本来対象となる方が不参加という状況であり課題があると認識している。今後その部分の解決に向けた開催方法を検討していく必要がある。</p>
委員	<p>会社を引退された方等による全校生徒向けの講演等を行っているか。無い場合は、そういった活動はいかがか。</p>
学校教育課	<p>子どもは本物の技術に触れ合う機会や、そういった方からの講演等に興味を示す。教科外の時間を設け、実施しているがなかなか全校生徒が集まって行うことは難しい。一部中学校においては全校生徒向けに実施している。</p>
委員	<p>回数は年にどれくらいか。</p>
学校教育課	<p>中学校では年に1回、小学校では各学校により異なる。</p>
委員	<p>学校は3学期あるので、年に3回程度は行っていただきたい。</p>
委員	<p>教育の機会の平等については非常に重要と感じる。生活困窮世</p>

	<p>帯という取り組みがはじめにあり、現在実施している学習支援をはじめとした取り組みを今後も進めていただきたい。また、特別支援学級の設置及び特別支援員の配置について記載があるが、この記載については、もう少し別の書き方が良いのではないか。障害差別解消法が施行されていることもあり、合理的配慮を前面に出していただきたい。例えば、「インクルーシブな教育システムの充実」という形で記載し、事業としては、特別支援学級の設置及び特別支援員の配置にとどまらず、普通学級に通う障がいのある子どもたちへの支援等に対応していけるような言葉が良いのではないか。</p>
<p>学校教育課</p>	<p>合理的配慮については、各学校で取り組んでいる。普通学級に通っている発達に障がいがある子どもについては、市内1校に通級指導教室を設置し、人間関係の構築等適切な指導にあたっている。また、言語難聴学級については市内に2つ設置している。</p> <p>なお、合理的配慮については重要なキーワードとなるので記載について検討する。</p>
<p>委員</p>	<p>人は成功体験をすることで成長するものだと考えている。自信を持たせてあげることが重要であり、何かそういった成功体験をさせることができる機会はあるか。</p>
<p>学校教育課</p>	<p>自己肯定感を高めることは現教育では重要であり、「褒めて伸ばす。怒るではなく叱る。」という方向性で進めている。小学校の教員は、学校行事の様々場面の中で、体からにじみ出るような思いやり、温かさ等を大切に指導している。</p>
<p>委員</p>	<p>自己肯定感を上げるということ自体が、学校教育の現場ではなかなかうまく上げることができないのが現状である。そこで、アクティブラーニングを導入し、自己肯定感を上げていくという方向性が読み取れて大変良いと感じる。</p>
<p>委員</p>	<p>社会体験学習への支援というのは、職場の体験というものを通じて、興味関心を引き出すことができると感じる。地域の支援や現場の体験等、ぜひ、市内事業所と連携し実施していただきたい。</p>
<p>学校教育課</p>	<p>委員の意見については、第2回審議会の際に説明させていただいたが、市内事業所の協力を得て実施している3days職場体験事業がある。この事業の中で学んだことを生徒が発表する機会を設けており、学んだことの共有を図っている。</p>
<p>委員</p>	<p>施策2の子育て世代包括支援センターの整備が再掲で多く見られるが、内容説明について追加していただきたい。和光市の「ネウボラ」が先進的であると思うが、吉川市として、その部分が見えると良いと感じる。次に、施策3の取り組みの順番については、労働相談の利用促進が最初に記載されているが、少し違和感がある。また、(1)「希望」の内容説明の文章中、2行目以降に記載されている文章を冒頭に持ってきた方がよいと感じる。長時間</p>

	<p>労働に関する是正という部分が見える形としていただきたい。</p>
健康増進課	<p>1点目の子育て世代支援包括センターの整備については、出産から子育て期における一貫した支援ということを考えている。健康増進課から子育て支援課等、他部署にまたがる業務の相談を一括して受けることを想定しているため、専門の相談員の配置や、ネットワークの構築、他課との連携強化等が必要となる。アンケート調査を行うとともに、他市の状況を調査しながら、吉川市の取り組みを検討しているところである。具体的部分について掲載していくかどうかは今後検討していく。</p>
事務局	<p>子育て世代包括センターの内容説明は追加させていただきたい。また、長時間労働の部分については、職場環境の改善に含むという形で考えていたが、担当課と再度調整させていただきたい。また、(1)「希望」の内容説明文章中2行目以降に記載されている文章を冒頭に持ってくるという変更点についてはそのような形で検討させていただく。</p>
会長	<p>子育て世代支援包括センターの整備については、今後の具体的な方向性等についてももう少し具体的にお示しいただきたい。</p>
子育て支援課長	<p>子育て世代支援包括センターの整備については、法律の改正により今後全国的に整備していく必要があり、吉川市においてもワンストップの拠点整備に向けて検討中である。各種事業については現在行っているが、それらを相談者にあった形でコーディネートしていくことが重要と考えている。</p>
会長	<p>少し分かりやすい書き方で記載していただけると良いと感じる。</p>
委員	<p>各課の課題を出し合うとともに、課題を共有して他市よりも早めに整備できるよう進めていただきたい。</p>
健康増進課	<p>従来の行政では所管が分かれて対応していたが、情報の一元化による案内や既存のサービスをどのように組み合わせるか等、担当課と調整を重ねている。記載方法については今後検討する。</p>
委員	<p>利用者目線での取り組みを心掛けていただきたい。</p>
委員	<p>情報発信については、どうしても一方通行になりがちであり、市民の考え方と行政の考え方等のサイトの中にあると良いと感じる。</p>
子育て支援課	<p>子育て支援情報については、行政サービスの案内のサイトと市民団体によるサイトの2つがあり、市民団体のサイトについては、子育て世代からの情報の発信が可能である。</p>
委員	<p>基本目標1を全体で見た際にここに記載されていることが課題であり、重要なことは、実施に向けた具体策を持っていることが</p>

	読み取れることである。出来が悪いものではないと感じるし、課題設定としては良いという印象を受けている。
会長	課題を整理できているかは重要であり、その部分を示す必要はある。
委員	家庭・学校・地域の連携という取り組みは重要であるが、実施については大変困難である。また、行政、学校だけで取り組めるものではなく、家庭・学校・地域という三位一体となり取り組みを進めていただきたい。
会長	地域と向き合い課題を洗い出した政策的対応を進めていただきたい。以前東京都において、退職者による子ども向けの講演を視察した際に、どんなに素晴らしい技術者であっても、子どもに対しての説明するノウハウが無いため、子どもたちが関心を持たないという場面を見てきた。この部分は学校だけの問題ではなく、子育て世代包括支援センター等もそうであり、一つ一つ具体的な課題について解決していくという姿勢で臨んでいただきたいというのが委員の共通の思いである。
事務局	資料1「具体的事業の方向性の検討について」、資料2「市民・審議会からの意見に対する考え方」を用いて、基本目標2について説明。
委員	<p>【意見・質疑等】</p> <p>施策2に関して、もう少し市民参画の部分を記載いただきたい。吉川市には市民コミュニティ交流拠点おあしすがあり、資料2にも今後施設の改修について検討していく旨記載がある。清掃活動のみならず、市民参加によるまちづくりの促進が入れられないか検討いただきたい。</p>
事務局	おあしすの拠点整備に関しては、施策3に含まれているところであるが、施策2に関して、もう少し市民参画の部分を記載できないか担当課と検討していく。
会長	施策3(2)「【余暇】充実した余暇を過ごせ、安らぐまちを創る」ではいわゆる環境に特化した形と読み取れる。市民参加や協働といった部分のように全体に関わる部分についてどのように位置づけるのか。総合戦略であえて項目を立てるか、大前提の考え方として読み取れるようにしていくかは、お考えいただきたい。また、施策3(1)のキーワードに「家族」とあり、見出しを変えた方が良いのかもしれない。事業が地域に関することとなっており、この部分についてどう整理したのか事務局に説明いただきたい。
事務局	市民意識調査において幸福度を図る尺度を聞いたところ、「家族」というキーワードが多くあり、その部分を記載したところである。「家族」に対する取り組みについては、なかなか難しく、「地域を含めた家族」という形で記載したものである。

会長	<p>少し曖昧であると感じる。地域コミュニティのあり方について、全国的には自治会加入率が下がっている現状であり、吉川市内がどうなっていてどう考えていく必要があるか、施策が本当に無いのかどうか今一度考えていただきたい。</p>
委員	<p>吉川市の地域産業といえば、農業であると感じている。地域産業とコミュニティというこの2極性をしっかりと考えていくことが重要であるが、なかなか見えてこない。他市でも当てはまってしまう気がする。もう少し吉川特有のビジョンが見えると良いと感じる。吉川の本当の魅力が何かを見出していきたい。</p>
会長	<p>総合戦略の策定にあたり作成した人口ビジョンを反映した部分がここには示されていない気がする。なかなか示すのが難しいのかもしれないが、もう少し伝わる書き方でも良いのではないか。</p>
委員	<p>高齢者等の働き口の確保についての記載ができないか。また、生産性や付加価値の向上と記載がされているが、役所としてそこに何が出来るかをヒアリングする必要があるのではないか。</p>
商工課	<p>ヒアリングについては、工業支援ということで、この秋から実態アンケート調査を実施する予定であり、雇用等についてもヒアリングを行う予定である。商業全般については、中小企業の活性化に向けた取り組みを現在検討中である。</p>
農政課	<p>農業に関しては、作物の生産性の向上や付加価値の向上に向けた取り組みを支援していくことを考えている。また、土地の利用計画に関しては、優良農地を守っていく考え方である。農業地域と市街地住民との交流事業として、産直めぐりのバスツアーを年4回開催しており、農業体験等を通じて双方のコミュニケーションを図っている。</p>
委員	<p>担い手不足や地産地消に関する課題を把握しているか。また、どのような対応を考えているか。</p>
農政課	<p>担い手農家の確保については、高齢化が進む中で担い手農家に対する支援を行うとともに、優良農地を担い手農家に集積する取り組みを行っている。また、地産地消に関しては、産直マップを活用したPRを行っている。</p>
委員	<p>市役所だけでは困難なこともあると思うが、地域の状況を把握し、吉川ならではの付加価値を付けていただきたい。</p>
委員	<p>主な取り組みが、他の自治体の農家にも当てはまる気がする。首都圏に比較的近い吉川市の場合は、土地の値段が高く、他の自治体と同様の支援では駄目だと感じる。将来のビジョンが無い状況で、従来の支援では駄目な時代ということ認識すべきである。地域の特性をしっかりと考え、将来のビジョンを今打ち立てるべきである。</p>

会長	都市型農業としての位置づけは必要である。吉川ブランドだけではなく、もう少し明確にしていきたい。
委員	ブランド力の発信については、国内のみの取り組みと感じ取れるが、もう少し海外に目を向けて、様々な方との連携による発信を取り組みとして考えていきたい。
委員	「家族」については、地域に関する取り組みの記載となっており、地域という言葉の変更が望ましいのではないかと感じる。家族というものが人により異なり、少し違和感があると思う。単身世帯が増加傾向であり、「多様な家族関係のあり方が尊重される」を前提としていきたい。
会長	「個」を尊重することが大前提であり、地域コミュニティがあるという、自助・互助・共助・公助という、幸福の実現に向けた整理が必要と感じる。要素の整理としては正しいが、取り組み内容としては「地域」と感じる。総合戦略であり、総合振興計画ではないので、すべてを網羅する必要はないが、少し組み立てについては考えていきたい。
委員	基本目標1に比べると、基本目標2は少し尖っていないと感じる。基本目標1のようにもう少し攻めていきたい。
委員	農業の話は非常に難しい話であり、先駆的な方がいることで、農家が成功している地域が他の自治体で見受けられる。農家をリードしていく取り組みが必要であり、農家の話を聞きながら、吉川の農業を発展させてほしい。
会長	TPP等も含めて、この機会にしっかりと考えていきたい。
委員	KPIが少しぼやけていると感じる。意識調査だけではなく、何かもう少し数値目標となるものがあるのではないかと感じる。
事務局	KPIの項目については、昨年度多くの意見をいただきながら設定させていただいた。数値目標については今年度の市民意識調査に新規で項目を設け、その実施結果により設定することとしたため、第2回においてお示しさせていただいたところである。さらに、KPIの項目の中で大人と子どもの双方からの目線で図っていくことが重要と考え設定させていただいたものである。次年度以降、各種指標を検証するとともに課題を見つけ修正を図っていく予定である。
委員	基本目標1に比べて、基本目標2の主な取り組みについては、もう少し踏み込んだ形が良いと感じる。特色をもった取り組みを記載していきたい。
事務局	ご意見をもとに事務局で検討させていただく。

会長 全委員	今回で改訂版の決定となるが、本日の委員の皆様のご意見の内容を踏まえ修正するとともに、何かその他ご意見があれば事務局まで早めに連絡していただきたい。最終的な決定については、会長一任ということによろしいか。 異議なし (2)その他 4 閉会
以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。 平成28年 9月17日 署名委員 小西 毅 署名委員 阿部 秀夫	